

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 23
2022・2・15

1 オズデミール大臣：我々の農業はトラクターとともに人工衛星とタブレット
ー 4 企業に技術革新のための奨励決定証を交付ー (2022・1・31)

連邦食料・農業大臣オズデミールは、農業関連のスタートアップ（立ち上げ）に際して、フライブルグ、アーヘン、メルブッシュそしてコンスタンツの農業経営、企業に、最初の奨励決定証を手渡した。



連邦食料・農業省は、アグテック（農業技術）とフードテック（食の技術）の若い 連邦食料・農業大臣オズデミール 企業家のための奨励プログラムでもって、支援する。これは農業年金銀行とともに、早期投資段階における農業関連の企業を助成している。これでもって資金調達の間隙を埋めている。

今日（1月31日）オズデミールは、年金銀行理事のニコラ スタインボック報道官とともに、最初の奨励決定書と奨励金約 290 万ユーロ（約 3 億 7700 万円）を、4 社に手渡した。特にニュースペース（訳注・政府主導の宇宙開発とは別に、異業種やベンチャー企業によって進められている宇宙開発）の企業を奨励する。独自の「人工衛星艦隊」からのデータ収集を支援し、作物ー土壌の健康分析を奨励している。このデータは、例えば農業者の畑への灌水を作物が要求し、そして目的に適応して調整される。

オズデミール大臣：“我々の農業は、まだ全てトラクターとゴム長靴に結びついている。タブレット、ロボットそして人工衛星支援のナビゲーションシステムは、資源に優しいだけでなく、農業は魅力的な職業分野である。これは我々の奨励でもって、我々が障害を除去する方策である。新しい連邦政府は、農業を持続可能にするために、試行している。”

少量の除草剤、殺虫剤、少ない肥料一同時により多くの種の多様性のために支援する。スタートアップの構想は、今日我々が資金上の刺激を与えることで、我々の目標を達成することができる。その際、農業が成果多くそして収益を、多くすることができる。私は我々のプログラムが良好に受け入れられること、そして価値多い貢献のために、スタートアップを感謝したい。

背景：

このプログラムは革新的なアイデアでもって、農業分野で農業関連のスタートアップを奨励する。この資金は従属ローン（訳注・銀行が企業融資を行わない場合の資金調達）が基本で、初期の財政段階において認可される。

奨励されるスタートアップ：4企業が受取る

一 ConstellR（コンステルR）有限会社（所在地 フライブルグ）

奨励金 800 000 €（約1億400万円）

この会社は「人工衛星艦隊」の支援でもって、持続可能な土地管理において、革新的な問題解決を可能としている。調査されたデータは、作物一土壤の健康分析で、持続的な管理を構築する。これをベースにコストと資源効率性をもった、農業関連アプリケーションを開発する。

一 crop.zonc GmbH（クropp ゾーン有限会社）（所在地 アーヘン）

奨励金 800 000 €（約1億400万円）

この会社は、基本的に施肥一雑草をコントロールするシステムを開発し、販売する。化学除草剤・殺虫剤の使用を止めて、物理的な代替え方法でもって、グリホサート（アミノ酸系除草剤）と他の科学除草剤（吸収以降型）を置替えることが可能である（目標：50%）。生物一生態系で農業を営んでいる農業者は、耕してそしてグリホサート除草剤の投入なしで優しく土壤保全し、高収益を得る働き方ができている。そして輪作を拡大し緑肥でもって、自然的な脱炭素に貢献している。

一 Feldklasse GmbH（フェルトクラッセ有限会社）（所在地 メールブッシュ）

奨励金 464 000 €（約6000万円）

この会社は効果的で使いやすい畑の耕作技術によって、農業者と環境への負担を軽くする。この機械は作物を傷つけることなく、精密に機械的に雑草防除を可能にする。

一 Organifarms GmbH (有機農場有限会社) (所在地 コンスタンツ)

奨励金 800 000 € (約1億400万円)

この会社は、労働集約的なプロセス自動化のための農場ロボットを開発する。つまり、果樹―野菜栽培における収穫、モニタリングと作物の病害虫防除のような、労働力を必要とする作業である。これの最初の産物―ロボットは、イチゴの収穫及び品質コントロールと、パック詰めを引き受ける。革新の中心点は、知的なソフトウェアである。このロボットによって、困難な条件のもとで良い結果を得ることができる。



ハウス内で野菜を収穫するロボット

2 連邦食料・農業省：温室効果ガス削減のための新しい指針の奨励政策

―糞尿など農場産肥料からの大気汚染物質の削減― (2022・2・1)

農場から排出される家畜糞尿などの醗酵に際して、環境汚染物質の削減に対する投資奨励のための新指針を公表。

連邦政府 (BMEL) は、農業における温室効果ガスの削減を目標に設定した。そのため BMEL は、「農場産肥料 (糞尿など) 醗酵に際しての大気汚染物質削減への投資奨励指針」



嵐の前の静けさ―異常降雨の前触を公布した。

家畜の糞尿、堆肥または鶏の乾燥糞のような家畜の排出物は、かなりの量が発生する。この栄養豊かなそして土壌の腐植生成効果によって、肥料目的で農地に投入されるべきである。

家畜の排出物が農場生産肥料として使用されるとき、貯蔵と尿散布の際に気象上重要な汚染並びに大気汚染物質が放出され、そして気象危機をもたらす。

このことは、持続可能な農業の意味においても、可能な限り汚染物質を減少させることが有効である。現在、嫌気性醗酵と得られたメタンガスの利用を伴う、バイオガステクノロジーは、農場産肥料の貯蔵中のメタンガス放出削減に際して、技術的そして経済的に確立した選択肢である。

現在ドイツでエネルギー生産のためのバイオガス施設において、農場産肥料の約 30%が使用されている。それによって温室効果ガスの重要な放出を、約 150 万 t CO₂ 一当量規模で阻止している。この割合は、新しい指針の奨励政策によって、さらに増加される。

プロジェクトについて

奨励指針の領域におけるプロジェクトに関して、農場産肥料の醗酵上昇のための環境—気象保護の意味において、バイオガス施設の経営投資が奨励される。

目的は農業における気象を、阻害する汚染物質の放出削減である。バイオガス放出における農場産肥料の利用を通じて、一般的な気象—環境汚染を減らす。

ここについては、以下のように奨励する。

- ガス漏れ防止の法的要件の無い限りにおいて、醗酵残さの貯蔵のガス漏れ防止カバーの設置
- 農場廃棄物に対する農場産肥料の増加を前提に、既に建設しそして操業しているバイオガス施設の容量変換
- バイオ施設のエネギー上の利用のために、農場産肥料準備ための機械、設備
- 醗酵残さ量の拡大並びに農場産肥料の増大に基づき、補完的な貯蔵施設の建設
- 農場産肥料の増大による業務上の転換のために、経営の農場産肥料の受け入れ拡大対策
- 毎年投入する基本的な量のもとでの、バイオガスの新しい施設のための農場産肥料の特別な施設部分。使用する肥料分の少なくとも 80%を提供
- 投資に付随した対策

投資計画は経営当たり 200 000 €（約 2 600 万円）までが限度額である。
新指針は 2024 年 12 月 31 日までの期限付きである。

背 景：

新奨励指針の目的は、バイオ施設における農場産肥料の補完的な利用を通じて、この肥料の使用から生ずる大気汚染物質（特にメタンガス）による、環境一気象被害の減少である。基質（糞尿など農場産肥料）のエネルギー利用が、同時に新しいエネルギー生産増加に貢献を果たす。



2020 年 7 月の豪雨によって多数の死者と農地・家屋に甚大な被害一気象変動に対する世論が高まる。



家畜の糞尿による再生可能エネルギーの生産プラント

3 オズデミール大臣：ドイツ栄養協会の品質基準を全ドイツに適用する 一社会的グループ毎に体重過多・病予防の栄養基準を一（2022・2・4）

連邦食料・農業大臣は、地域社会の食事提供サービスにおける、より良い品質のためのドイツ栄養協会（DGE）のプロジェクトを奨励する。オズデミール大臣は、地域社会における食事提供サービスにおける栄養品質を向上させるために、そして食堂の食事を健康と持続可能性を高めることに尽力している。



奨励金 380 万ユーロを公布する大臣

そして今日（2 月 4 日）ドイツ栄養協会の事務局長及び会長に、380 万ユーロ（約 4 億 9 400 万円）公布する奨励証書を授与した。

同協会の Dr.キラン ヴェイルマニと Dr.有教授資格のヤコブ リンセイセンに対して、DGE のプロジェクトを奨励している。保育園ー基礎学校（訳注・日本の小学校 1~5 年生に該当）の子供達、職業に就いている人、脆弱なグループ（例えば、病人、障害者のような）の人に、健康でかつ持続可能な給食を提供する栄養基準を設定している。

例えば、食事のために推薦する栄養基準を作成し、レシピの持続可能性のための評価ツールの開発、または情報伝達者について、食事提供の責任をトレーニングする。その際、DGE 一品質基準の拡大、実践そして恒常化を支援する。

奨励は、「IN FORM ー健全な栄養とより多くの運動のためのドイツニシアチブ」の領域において奨励される。

オズデミール大臣：“ 食堂におけるより良い食事は、体重過多とそれから結果として生ずる糖尿病など、病気を未然に防ぐ。そのため、我々はバランスのとれた、地域産物そして有機栽培の食材を奨励し、2030 年までに有機農業の割合を、30%までの拡大目標を達成する。DGE 一品質基準は、学生食堂または一般の食堂における食事の高品質性と、持続可能な食事に改善することを奨励する。同時に我々は、ヨーロッパのパイオニアである。今、ドイツ全土において、この基準が適用され、そして共同食事（学校給食など）の基準として重要視される。”

Dr.ヤコブ リンセイセン：“ コロナーパンデミックの前は、毎日約 1 600 万人の人々が地域の食事提供施設で、食事を摂っていた。このため、地域社会の食事提供は、栄養の過剰ー不足によるところの病気の予防、同時に気象ー環境保護のために貢献していた。”



連邦食料・農業省の委託で DGE が策定した 5 つのグループー、幼稚園児・小学生
・会社員・病院患者・高齢者向けの栄養基準



DGE の基準による小学生の給食

4 オズデミール大臣：腐植の蓄積は気象保護を意味する

ーモデルーデモンストレーションー計画に奨励決定ー (2022・2・1)

連邦食料・農業大臣オズデミールは、”農業における腐植蓄積”は農モデルーデモンストレーション計画に対して、奨励決定通知を交付した。連邦食料・農業省は、農業で使用している土壌の腐植蓄積プロジェクトを奨励している。



オズデミールは、ドイツ農民組合（DBV）とエコ食料連盟に対して、2 300万ユーロ（約29億9000万円）の資金調達決定書を、今日（2月1日）交付した。このモデルーデモンストレーション計画の目的は、現在、これに参加した150の農業経営が、今の実践を越えた革新的、長期的に効果のある腐植保持ー蓄積の対策を確立することである。その際、ドイツにおける代表的な経営構造と地域的な現況の多様性が、より多くのモデル地域において、描かれるべきである。これらの経営は、カタログの中から可能な対策を選択できる。

オズデミール大臣：”腐植の蓄積は気象保護を意味する。このプロジェクトは持続可能な、つまり、資源を大切にし、そして気象に優しい農業の意味で、重要な役割を果たす。我々は慣行農業においてよりも、有機農業の分野で強く、革新を定着させたい。このプロジェクトに際して、実践の中で可能な限り、広範に腐植蓄積のための持続的な方法を、拡大することが重要である。

国全体での知識移転並びに調整、連携によって、慣行農業と有機農業の知見を基礎とした交流が、相乗的な効果をもたらす。同時にこの計画は、気象危機克服のための農業の貢献に関する重要な礎石である。なぜならば、腐植によって大規模な量の炭素が、蓄積されるからである。

同時に土壌中のより多くの腐植が、気象危機の結果に対して、高度な回復力を創り出す。”

背景：

腐植の蓄積は、土地利用とその変化、林業において気象保護法で 2030 年までに設定している、マイナス 2500 万 t 相当量の目標達成のための重要な対策である。連邦政府の 2030 年気象保護プログラムは、農業で利用している土壌の炭素蓄積潜在力を、より強化することを計画している。ドイツで農業に利用している土壌（畑と草地）は、チューネン研究所の報告によると、1m の深さに約 25 億 t の炭素を蓄積している。炭素は有機物（特に腐植）の形で土壌中に蓄積されている。

その際、大気中の二酸化炭素から植物の光合成を通じて、炭素が土中に貯蔵される。腐植と土壌生命の強化でもって、土中に炭素だけを貯蔵するだけでなく、土壌の肥沃性もまた向上する。なぜならば、腐植は多くの土壌機能のために、大きな意義をもっている。



農家とともに土壌調査を行う。

例えば、土中微生物と植物のための栄養源として、マイクロバイーム（微生物集合体）として、非常に大きな意義を持っている。腐植の含有蓄積のために、豆類やアルファルファのような作物を含めた数種類の輪作、生垣のような景観要因と農業—林業システム（アグロフォーレストシステム）の畑地での灌木栽培も含んでいる。そのため、連邦農業省は気象保護対策における腐植蓄積の第一歩として、様々な政策を実施している。

これは腐植を増やし腐植を含む農業についての科学的な知見を創り出し、そして農業実践において可能な限り、広範に普及させること。いわゆるモデルデモンストレーション計画の狙いである。これは腐植を多くする対策の広範な実践と、農業実践における戦略強化の第一歩である。



同一圃場に作物と樹木を植栽する
アグロフォーレストシステム

5 農村地域にある農業博物館の奨励 ―コロナ・パンデミックの中で支援を 一地域の歴史と伝統文化を護りそして未来へつなぐために― (2022・2・9)

農村にある農業博物館は、50 000 ユーロ（約 650 億円）まで、投資奨励が可能である。例えば、展示スペースの近代化、バリアフリー又は農村文化の紹介において、これまで合計 400 万ユーロ（約 5 億 2 000 万円）の奨励金を受けることができた。



連邦食料・農業省は、博物館の維持と文化財の品揃え強化のために貢献している。ドイツの多くの農村地域において、博物館は農業の歴史並びに当面するテーマと農業と食料を巡る情報を提供し、その際農村での生活における情報も提供している。博物館は近代化とそれのさらなる発展に際して、現在のコロナパンデミックの中での支援を必要としている。

連邦食料・農業省は、連邦農村発展プログラムからの財源でもって、2021 年に農村地域における農業博物館への投資を奨励してきた。この奨励は”緊急プログラム郷土博物館―農業博物館 2021”の領域において、メディアと文化に関する連邦政府の委任との共同活動が実施された。

さらなる情報：

ここで奨励された博物館の情報を提供する。郷土―農業博物館に関する緊急プログラムの領域（農業博物館のプログラムの一部）において、全ドイツに分布している合計 135 の博物館が奨励を受けた。これを州別にみると、ブランデンブルグ州 18、バイエルン州 8、ニーダーザクセン州 17、バーデン＝ヴュルテンブルグ州 14、ノルトライン＝ヴェストファーレン州 14、ザクセン州 12、ラインラント＝プファルツ州 9、ザクセン＝アンハルト州 8、ヘッセン州 7、メクレンブルグ＝フォア＝ポメメルン州 6、シュレーズビッケーホルシュタイン州 6、チューリンゲン州 5、ザールラント州 1 となっている。

ここでは、農業博物館も農業技術博物館も支援されている。さらに農家の家、水車小屋（粉ひき所）そして農村で仕事をしてきたかつての農民生活と労働を、展示している博物館が奨励されている。

そしてワイン（ぶどう）博物館、食料生産に重点をおいた博物館、歴史的な製材所もまた、財政的な支援を得ている。さらに焼き菓子博物館、ヨーロッパ博物館、そして車やそりを引く輓馬博物館に対しても奨励がされた。この奨励プログラムは、ドイツ博物館連盟とドイツ考古学博物館と連携によって実施された。

奨励の概要：

連邦政府は特に農村での市町村と都市において、以下の施設を奨励してきた。

- 一 博物館、考古学博物館と屋外民族博物館を含めている。
- 一 個人所有の自由に利用できるコレクション
- 一 公的に利用できる建造物、例えば農家の家、水車小屋など。

補助は、近代化対策とプログラムに沿った投資が 50 000 ユーロ（約 650 万円）まで対象とされた。連邦政府の奨励は、まず第一に 200 万ユーロ（約 2 億 6 000 万円）に提供された。この分野において 2021 年 4 月 1 日以来、考古学連盟（DVA）への申請が行われた。そしてその結果大きな資金需要のために、2021 年 6 月から 200 万ユーロ（2 億 6 000 万円）から 400 万ユーロ（約 5 億 2 000 万円）に倍化された。

なぜならば：2021 年 5 月まで既に、200 万ユーロを遥かに越える 80 の申請額が提出されてきたからである。この倍化によってさらに 55 の博物館が、奨励を得ることができた。奨励可能な対策には、例えば建造物の維持と倉庫と展示スペースの修理（新しい展示ケース、新しい説明システムまたは、展示分野の WLAN のような）が挙げられる。文化財への投資効果もまた、多様性、アクセシビリティ（利用のしやすさ）の奨励対策とグループプログラムの導入が、奨励可能である。

背 景：

「緊急支援プログラム・郷土館と農業博物館 2021」は、連邦プログラム農村の発展（BULE）の一部である。このプログラムの目的は、農村地域を魅力的な生活空間として保持し、そしてさらに未来においても人々が農村に暮らし、そして働くことができることである。この BULE の政策の領域において、モデルプロジェクト—地域、コンクール、研究そして科学的な知見の伝達・継承を奨励する。

プロジェクトの事例：

- 1 バロックをデジタルで体験” オーバーシュバーベン地域の博物館”
- 2 アルゴイ地方の山岳農民博物館 ” アウトドア―特別展示の完成と博物館周遊道路の完成”
- 3 ゲルツケ地方の木材―狩猟博物館” 手工業場での林業―狩猟の制限なしでの利用確立”
- 4 ヘッセン公園（有限会社）の屋外民族博物館の農村生活体験
- 5 ヴァーラー地方の水車小屋（粉ひき小屋）” 水車小屋博物館の将来的な可能性の向上”
- 6 西部フェーリッシュザルツ ” 塩の世界―バートサンセン村塩味のスローフード・塩を使った料理と保存”
- 7 オッペンハイム地方のドイツワイン（ぶどう）博物館 ” ライン川沿いのワイン文化のデジタル地図”
- 8 ソルブ農民博物館 ” ソルブの伝統を護り風俗・習慣の展示”
（訳注・ソルブ人：ドイツ東部に住むスラブ民族の一部。ソルブ語を話す）
- 9 ブランデンブルグ地方の食の歴史展示 ” 展示スペースの近代化”



フランコニア地方の野外博物館・農家の家。フランコニアは、ドイツ南部バイエルン州の北部、ニュルンベルグ市を中心とした地域



古いトラクターの展示

2021・2・12 訳
青森中央学院大学
地域マネジメント研究所
中川 一徹